

## インターバンクの声（2016年8月3日）

昨日、東京時間午後2時頃までは、今週金曜日の米雇用統計が発表されるまでは、円相場も102円台を割り込むことはないだろうと思っていた。しかし、ロンドン市場が開く頃には101円台に下落、ニューヨーク市場に入ると7月11日以来3週間ぶりに100円台まで円買いが進んでしまった。そもそも円相場が急に荒れ始めたのは先週の金曜日からだだったが、日銀の追加緩和が外人勢を中心に不評だったことや、米国の第2・四半期GDPの結果が市場予想よりも大幅に悪化したことが大きく影響していた。それでも今週週末に米雇用統計の発表が控えており、その結果を待たずに円買いを続ける可能性は小さいと見込んだのが、102円台で下げ止まると思った所以だ。週明けの海外市場での原油価格の下落が、円相場にそれほど影響しなかったことも見方を甘くしてしまった。昨夜は、この原油価格の下落と世界的な株価の下落が再びリスク回避志向を強めた。英国の国民投票でEUからの離脱決定後に付けた99円は特殊要因によるものだったとも言えるが、米雇用統計で弱い数字が出てくるようだとはいよいよ円高が本格化するかも知れない。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。